総研大ニューズレター

第 60 号　2013.5　発行

●目次

【今月のトピックス】
「平成 25 年度入学式を挙行　広報室」
「平成 25 年度（第 4 回）学長賞研究発表会及び授与式開催　学務課」
「平成 25 年度前学期学生セミナー
『総研大生という生き物 Let’s find the diversity』学融合推進センター」
「宇宙科学研究所が大学共同利用連携拠点を設置　宇宙科学専攻」
「日文研フォーラム　開催　国際日本文化研究センター」
「総研大担当教員が平成 25 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けました　広報室」
【各種募集】
【イベント情報】
主なイベント予定
5 月 3 日　湘南国際村フェスティバル 2013
5 月 11 日　生命共生体進化学専攻 大学院説明会
5 月 11 日　基礎生物学専攻 大学院説明会
5 月 18 日　遺伝学専攻　大学院説明会
5 月 30 日～6 月 1 日　宇宙科学専攻　夏の体験入学

【今月のトピックス】

平成 25 年度入学式を挙行

平成 25 年 4 月 8 日（月）葉山キャンパス 2 階講堂において平成 25 年度入学式が行われました。入学者 88 人中 79 人が参加し、これまでの総入学者数はこれで 2,568 人となりました。

開式の辞、役職員の紹介に続いて、入学者の名前が一人ずつ読み上げられ入学が許可されました。高畑学長の式辞があり、出席者は緊張した面持ちで聞き入っていました。

【文責：広報室】

平成 25 年度（第 4 回）学長賞研究発表会及び授与式を開催

平成 25 年 3 月 18 日（月）ホテルフロラシオン青山にて「平成 25 年度（第 4 回）学長賞研究発表会」が開催されました。　各候補者による学位研究課題発表の後、ポスターボード前にて審査員を交えた活発な質疑応答が行われました。　厳正な審査の上、本年度の受賞者は最終候補者 9 名全員と決定し、平成 25 年 4 月 8 日（月）の入学式時に高畑学長より学長賞が授与されました。

受賞者一覧

【文化科学研究科】

①白　福英　　　（地域文化学専攻）

「社会主義政策下における牧畜社会の変容
―内モンゴルオラド後旗・B ソムの事例を通して」

②西田　彰一　　（国際日本研究専攻）

「筧克彦の神道思想とその広がりについて　―身体論を中心に　」

【物理科学研究科】

③江口　敬太郎　　（構造分子科学専攻）

「表面における磁性ナノ物質の形成および磁気特性に関する研究」

④中村　豪　　　（構造分子科学専攻）

「P-N 型配位子を用いた錯体型光還元触媒の構築」

⑤望月　建爾　　（機能分子科学専攻）

「氷の融解過程と水溶液の局所構造に関する理論研究」

【複合科学研究科】

⑥Ｙｕｎｌｏｎｇ　Ｆｅｎｇ　　（情報学専攻）

「ネットワーク上での映像ストリーミングのためのインタラクティブ・　システム　」

【生命科学研究科】

⑦鈴木　亜友美　　（遺伝学専攻）

「大脳皮質の神経回路精緻化における皮質下領域 AC1　の働きを解明する」

⑧加藤　健治　　（生理科学専攻）

「人工神経接続による随意制御の再建」

【先導科学研究科】

⑨河野　　美恵子　（生命共生体進化学専攻）

「地衣類の共生を支える遺伝的基盤の解明」

【文責：学務課】

平成 25 年前学期学生セミナー
『 総研大生という生き物　Let’s find the diversity』

＜日　　程＞ 2013 年（平成 25 年）4 月 8 日（月）～ 9 日（火）
＜開催場所＞ 葉山キャンパス
＜参加者数＞ 学生：71 名　実行委員：15 名　教員：31 名　講演者 2 名

入学式の朝、雲ひとつない青空で葉山キャンパスは包まれていました。
本年度学生セミナーは「総研大生という生き物　Let’s find the diversity」をテーマに、コミュニティを多くかつ広く持つことの意義について、新入生のみなさんと一緒に考えていきました。
一日目、最初は「研究を知る、研究者を知る」セッションです。グループごとに先生の研究分野の魅力を聞き出し、発表しました。このセッションでは、各専攻の研究視点の違いが感じ取れ、HP や要覧ではわからない先生たちの研究の最前線を知る良い機会になったと思います。

次のセッションは「おいでよ、研究者の森」です。まず、アイスブレークとして「アカデミックバスケット」を行ないました。これは椅子取りゲームの一種で、知らない者同士が仲良くなるために企画されました。ここでは、先生方にもアカデミックバスケットに挑戦して頂き、「科研費の通った人！」などのコールで椅子を取り合うなど、普段ではなかなか見ることのできない先生のお茶目な一面を知ることができました。懇親会を挟んだ後は、グループごとに他専攻の人と協力しなければ解けないクロスワードパズルを解きました。ヒントとして渡された冊子は持ち帰ったあとも読んで楽しめるものであったと思います。クロスワードパズルを解いたメンバーでそのまま「１円玉ワークショップ」を行いましたが、専攻による価値観の違いに驚いている場面が多く見られました。このワークショップでは先生にも各グループに交じっていただき、他専攻を知る意義について、学生と共に議論を交わしていただきました。話し合いの内容をパズル形式で書いていくグループや先生がドラえもんを書いて話し合いを盛り上げているグループなどあり、会場は白熱していました。

二日目のセッションのテーマは「伝える難しさに気づく、伝える楽しさに出会う」です。まず、ペアで地図課題というワークショップに臨み、バックグラウンドの違いによるコミュニケーションの難しさを肌で感じました。それを踏まえて、京都大学の水町衣里先生から科学コミュニケーションのトレーニングプログラムのお話をしていただきました。水町先生からはサイエンスカフェ等での、相手に自分のことを伝える際の工夫や相手の話を促す動作など実用的な内容を教えていただき、伝えることは言葉だけではないことを理解することができました。また、未来工学研究所の田原敬一郎先生からは「社会が求める研究とは？」というテーマでご講演いただき、研究を行う上でどのような評価が関わってくるかについてお話がありました。新入生からは鋭い質問が出され、科学コミュニケーションのあり方や研究の意義について真剣に考えていることが伝わってきました。

最後は「関心の翻訳ワークショップ」セッションです。様々な立場の意見をもとに実際に自分たちで博物館の企画を行いました。この課題はかなり難しく、その意義の説明がありました。この 2 日間のいくつかのセッションで得た経験を振り返り、改めてこの学生セミナーの意味を理解する機会となったのではないでしょうか。

全てのセッション終了後、新入生と学生セミナー委員で記念撮影を行いました。よろけるほどの強風のなかでしたが、皆さん弾けんばかりの笑顔で写真に写っています。この笑顔から、新入生、学生セミナー委員ともに満足できるセッションになったことがわかりました。これからの研究生活では、今回の強風よりも強い風に見舞われることもあると思いますが、新入生の皆さんが学生セミナーで得たことを糧にこのままの笑顔で歩まれていかれますことを心よりお祈りいたします。

今年度学生セミナーを企画、運営するにあたって、先生、事務の方など多くの方々にご支援いただいたことに改めて感謝申し上げます。そして、この一年間、学生セミナーをより良いものにしようと共に闘ってきたセミナー実行委員のみなさんにも感謝です。みなさんのような本音でぶつかり合える仲間に出会えて、よかったと心の底から思っております。本当にありがとうございました。

次の学生セミナーが成功いたしますよう、心よりお祈りいたします。

学生セミナー　スケジュール

4 月 8 日	
15:25-15:40	オープニング
15:40-17:20	セッション 1～専攻紹介ワークショップ～ 「研究を知る、研究者を知る」
17:20-17:30	休憩
17:30-18:00	セッション 2～他分野を知る～「おいでよ、研究者の森」
18:00-19:00	夕食（意見交換会）
19:00-21:40	セッション 2　～他分野を知る～ 「おいでよ、研究者の森」
4 月 9 日	
8:30-11:30	セッション 3　～相互理解～ 「伝える難しさに気づく、伝える楽しさに出会う」 ワークショップ「地図課題」 講演 1：水町衣里（京都大学　物質―細胞統合システム拠点　科学コミュニケーショングループ　研究員） 講演 2：田原敬一郎（未来工学研究所　主任研究員）
11:30-12:20	昼食
12:20-14:20	セッション 4　～研究者と社会との対話～ 「1 億円ワークショップ」
14:20-14:50	全体総括 クロージング 全学プログラム紹介

【文責：極域科学専攻　丸尾文乃】

宇宙科学研究所が名古屋大学に大学共同利用連携拠点を設置

物理科学研究科宇宙科学専攻の基盤機関である宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）宇宙科学研究所は、名古屋大学太陽地球環境研究所と連携し、大学共同利用連携拠点を新たに設置することとし、拠点の設置、運営に係る協定をこのほど締結した。

宇宙科学研究所は、ＪＡＸＡ統合前の大学共同利用機関時代より継承している大学共同利用の機能充実を目指し、多様化する学術コミュニティの要請に応えるために研究所単独では実行が困難な機能を強化することを目的として大学共同利用連携拠点を設置しており、平成２２年の京都大学宇宙総合ユニットとの連携に基づく連携拠点に続いて今回で２カ所目の拠点を設置することとした。

今回締結した協定では、国立大学共同利用・共同研究拠点である名古屋大学太陽地球研と宇宙科学研究所双方の大学共同利用の精神に則り、双方の知見を活かして学術コミュニティに貢献することが謳われている。

この連携拠点により、地上からの観測データ、衛星からの観測データと、数値モデリングを統合的に取り扱える仕組みを整備し、近地球宇宙空間環境総合科学分野での共同利用機能を大きく強化することを目指している。

この協定に基づき、両研究所の委員により構成される拠点運営協議会を設置し、今後、拠点で採用する教員人事を含む大学共同利用連携拠点の運営にあたるなど、新しい試みも実施する。

【文責：宇宙科学専攻】

国際日本文化研究センター　日文研フォーラムを開催

国際日本文化研究センターは、４月９日（火）にハートピア京都（京都市中京区）において、日文研フォーラムを開催しました。この催しは、社会一般との研究交流を促進することを目的に、来日中の外国人研究者が自身の専門の視点から、日本文化に関連した内容について一般市民向けに発表するもので、原則として毎月第２火曜日に実施されてきました。今回で２６６回目になります。当日は、「武術伝授に見る東西両世界」と題したカセム・ズガリ日文研外国人研究員（フランス国立東洋言語文化大学フランス日本協会研究員）の講演及び笠谷和比古日文研教授のコメントに、参加した１１４人の聴衆は耳を傾けました。

発表者のカセム・ズガリ外国人研究員（左）とコメンテーターの笠谷和比古教授（右）

【文責：国際日本文化研究センター】

総研大担当教員が平成２５年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けました

本学の担当教員１０名が、平成２５年度科学技術分野の文部科学大臣表彰を受けました。

この賞は文部科学省が、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、日本の科学技術水準の向上に寄与することを目的として表彰が行われています。

本学担当教員　受賞者一覧

科学技術賞（研究部門）

○伊佐　正　　生命科学研究科　生理学専攻　教授
業績名「霊長類の神経回路を選択的に制御する手法に関する研究」

○井口　聖　　物理科学研究科　天文科学専攻　教授
業績名「高精度天体画像観測を可能にする開口合成型電波望遠鏡の研究」

○小江　誠司　物理科学研究科　構造分子科学専攻　１９９５年度修了生
業績名「水中での小分子活性化分子触媒の研究」

○森　　治　　物理科学研究科　宇宙科学専攻　助教
業績名「ＩＫＡＲＯＳによるソーラー電力セイルの実証に関する研究」

○森脇　和郎　生命科学研究科　遺伝学専攻　名誉教授
業績名「バイオリソース・マウスの進化史に基づく生物機能モデルの研究」

科学技術賞（理解増進部門）

○渡邊　興亞　複合科学研究科　極域科学専攻　名誉教授
　神田　啓史　複合科学研究科　極域科学専攻　名誉教授
業績名「講演活動等の全国ネットワーク組織による極地科学の理解増進」

若手科学者賞

○北川　大樹　生命科学研究科　遺伝学専攻　准教授
業績名「中心小体複製の分子機構の研究」

○鯉渕　道紘　複合科学研究科　情報学専攻　准教授
業績名「計算機システムにおける相互結合網の設計技術の研究」

○檜山　武史　生命科学研究科　基礎生物学専攻　助教
業績名「体液 Na+レベルセンシング機構に関する研究」

【文責：広報室】

【各種募集】現在公募中の情報

事　　項	応募期間	提 出 先
平成 25 年度共同開発研究等	平成 25 年 6 月 28 日(金)必着 (研究集会第 2 回)	国立天文台研究支援係
http://jouhoukoukai.nao.ac.jp/kouryuu/koubo/h25kyodo.html		
学融合推進センター 研究論文助成	随時	総合研究大学院大学 学融合推進センター事務係
http://cpis.soken.ac.jp/htdocs/?page_id=68		

【イベント情報】

● 総研大の行事

5 月

日程	時間	行事名	場所
3 日 (金・祝)		湘南国際村フェスティバル2013 ・講演会 「野生動物研究者にとってのアフリカ」 ・サイエンスカフェ「科学を伝える」 ・観望会「春の夜空を楽しもう」	葉山キャンパス等
	http://www.shonan-village.jp/update/2013/02/2013.html		
11 日(土)	12:45-17:00	生命共生体進化学専攻　説明会 「大学院で学ぶ進化学・科学論入門」	秋葉原 UDXカンファレンス
	http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/open_campus/20130511.html		
11 日(土)	13:00	生命科学研究科　基礎生物学専攻 大学院説明会	秋葉原 UDXカンファレンス
	http://www.nibb.ac.jp/graduate/index.html		
18 日(土)	13:00-17:30	生命科学研究科遺伝学専攻　大学院説明会	国立遺伝学研究所
	http://www.soken.ac.jp/news_all/2928.html		
30 日(木) | 6 月 1 日(土)	16:00-19:00	宇宙科学専攻 夏の体験入学	JAXA 相模原キャンパス
	6/1(土)のみ 10:00-13:00。詳細は別途告知します。		

6 月

日程	時間	行事名	場所
1 日(土)	14:00-16:30	宇宙科学専攻 説明会	JAXA 相模原キャンパス
	詳細は別途告知します。		
1 日(土)	12:00-17:00	分子研オープンキャンパス 2013	岡崎コンファレンスセンター
	http://www.ims.ac.jp/opencampus2013/index.html		

7日(金)	13:30-16:30	葉山「熱血益川塾」 ～益川敏英先生と科学や社会、人生など語らいませんか？～	葉山キャンパス
7 日(金) | 8 日(土)		生命共生体進化学専攻 オープンキャンパス	葉山キャンパス
14 日(金)		複合科学研究科　統計科学専攻 大学院説明会	統計数理研究所
	http://www.ism.ac.jp/		
14 日(金)		統計科学専攻　博士 100 人記念講演会	統計数理研究所
15 日(土)	15:40-17:30	情報学専攻　入試説明会	一橋講堂　特別会議室 (学術総合センター2F)
22 日(土)	13:00-16:30	高エネルギー加速器科学研究科 大学院説明会	一橋講堂 会議室 202、203 (学術総合センター2F)

7 月

日程	時間	行事名	場所
7 日(日)	13:00-16:30	日本歴史研究専攻　大学院説明会	明治大学アカデミーコモン　　(309A 教室)
	http://www.rekihaku.ac.jp/graduate_school/soukendai/admission/briefing.html		
9 日(火)	10:00-17:00	高エネルギー加速器科学研究科 オープンキャンパス	高エネルギー加速器研究機構つくばキャンパス

● 基盤機関の行事

5 月

日程	時間	行事名	場所
3 月 19 日(火) | 9 月 23 日(月)	9:30-17:00	第 4 展示室　特集展示　人間文化研究機構連携展示 「東日本大震災と気仙沼の生活文化」	国立歴史民俗博物館
4 月 16 日(火) | 5 月 6 日(月)	9:30-16:30	伝統の桜草	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
4 月 1 日(月)-	10:00-16:30	常設展示「和書のさまざま」	国文学研究資料館 展示室
	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/		
2 日(木) | 6 月 11 日(火)	10:00-17:00	企画展「アリラン―The Soul of Korea」	国立民族学博物館
3 日 (金・祝)	10:00-17:00	Fusion　フェスタ　in Tokyo-2013 -核融合！未来を創るエネルギー	日本科学未来館

3 日 （金・祝）	15:00–15:30	【特別展「マダガスカル　霧の森のくらし」関連】 ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」『つばなし帽子と女性の髪型』	国立民族学博物館
4 日（土）	13:30–15:30	第 18 回歴博映画の会 「東北のまつり–映像による記録の過去・現在・未来」	国立歴史民俗博物館
11 日（土）	12:00–15:30	点字教室	国立民族学博物館
11 日（土）	13:00–15:00	第 353 回歴博講演会 「祭りを継承する絆の創造–祭り研究の最前線から–」	国立歴史民俗博物館
11 日（土）	14:30–15:30	みんぱく映画会 「ザフィマニリスタイルのゆくえ」	国立民族学博物館
12 日（日）	13:30–16:30	ワールドシネマ 「私の中のあなた」	国立民族学博物館
12 日（日）	14:30–15:30	みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 第 298 回 「マダガスカルの無形文化遺産 ザフィマニリ彫刻の映像記録」	国立民族学博物館
14 日（火）	14:00–16:00 開場 13:40	第 267 回日文研フォーラム （発表タイトル未定） 発表者：アンナ・アンドレーワ（ハイデルベルグ大学アカデミックフェロー／日文研外国人研究員）	ハートピア京都 3階大会議室
	http://www.nichibun.ac.jp/event/forum.html		
18 日（土）	14:30–15:30	【特別展「マダガスカル　霧の森のくらし」関連】 第 421 回みんぱくゼミナール 「マダガスカル　霧の森にくらす人びと」	国立民族学博物館
19 日（日）	14:30–15:30	みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう　第 299 回 「マダガスカル農村部の日常生活と墓制」	国立民族学博物館
20 日（月）	14:00–16:30	【特別展「マダガスカル　霧の森のくらし」関連】 –ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」『ヒトとウシ—供犠から編みものまで』	国立民族学博物館
22 日（金）	14:30–16:00 開場 13:45	日文研学術講演会 —梅原　猛先生米寿記念特別講演会—	国際日本文化研究センター内講堂 （日文研ホール）
	http://www.nichibun.ac.jp/event/tokubetsu.html		
23 日（木） ｜ 8 月 13 日（火）	10:00–17:00	企画展「アマゾンの生き物文化」	国立民族学博物館
25 日（土）	13:00–17:15 （予定）	公開フォーラム「世界の博物館２０１３」	国立民族学博物館 第５セミナー室

25日（土）	13:30-15:30	第170回くらしの植物苑観察会 「佐倉城址の森について」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
25日(土)	13:30-14:30 15:00-16:00	体験プログラム 「瞽女文化にさわる」	国立民族学博物館
25日（土）	14:30-15:30	みんぱく映画会 「ギターマダガスカル」	国立民族学博物館
26日（日）	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン―研究者と話そう 第300回 「マダガスカル展 もうひとつの準備現場」	国立民族学博物館
31日（金）	14:00-16:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」『よくみて判る大きなちがい―素材から編み方まで』	国立民族学博物館
31日（金） ｜ 6月1日（土）		分子研シンポジウム2013	岡崎コンファレンスセンター
	http://www.ims.ac.jp/opencampus2013/index.html		

6月

日程	時間	行事名	場所
1日（土）	13:00-16:20	第88回歴博フォーラム 「築何年？炭素の年代で調べる民家の年代研究最前線」	国立歴史民俗博物館
2日（日）	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン―研究者と話そう第301回「シルクの島マダガスカル」	国立民族学博物館
8日（土）	13:00-15:00	第354回歴博講演会 「企画展示『行列にみる近世』の舞台裏」	国立歴史民俗博物館
9日（日）	14:30-15:30	みんぱくウィークエンド・サロン―研究者と話そう 第302回 「太平洋からきたマダガスカルのことば」	国立民族学博物館
11日（火）	14:00-16:30	【特別展「マダガスカル 霧の森のくらし」関連】 ワークショップ「ザフィマニリの敷物を編もう」『豊富にみつかる天然素材』	国立民族学博物館
14日（金）		統計数理研究所オープンハウス （統計科学専攻 博士100人記念講演会）	統計数理研究所
14日（金） ｜ 15日（土）		国立情報学研究所オープンハウス 「未来を紡ぐ情報学-新しい価値の創成へ」	国立情報学研究所
15日（土）	14:30-15:30	【新日本の文化展示関連】 第421回みんぱくゼミナール「日本の漁業を考える」	国立民族学博物館

15日(土) | 11月23日 (土・祝)	14:30−15:30	【新日本の文化展示関連】 「世界のニッポン、みんぱくのニッポン—春〜秋のみんぱくフォーラム 2013」	国立民族学博物館
16日(日)	13:30−16:30	みんぱく映画会「文化の記録と映像表現—川瀬慈作品特集」	国立民族学博物館
22日(土)	13:30−15:30	第171回くらしの植物苑観察会「レンズで覗く植物たち」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
22日(土)	13:30−14:30 15:00−16:00	体験プログラム 「瞽女(ごぜ)文化にさわる」	国立民族学博物館

7月

日程	時間	行事名	場所
2日(火) | 9月1日(日)		時代を作った技ー中世の産業革命ー	国立歴史民俗博物館
11日(木) | 11月5日(火)		「平和を築くアートーモザンビーク 「武器を農具に」プロジェクト」(仮題)	国立民族学博物館 企画展示室B
13日(土)		みんぱく映画会/みんぱくワールドシネマ 「さあ帰ろう、ペダルをこいで」	国立民族学博物館 講堂
13日(土)		第355回「中世技術の最先端」	国立歴史民俗博物館
20日(土)	13:00−16:45	第89回「モノ作りの中世」	国立歴史民俗博物館
20日(土)	15:30−17:20	核融合科学研究所　市民学術講演会	セラミックパーク MINO 1階　国際会議場
20日(土)		みんぱくゼミナール「色を創る、音で伝える、心に触れる　—瞽女がみた風景—」	国立民族学博物館
23日(火) | 9月1日(日)		江戸のくらしと虫	国立歴史民俗博物館
26日(金) | 27日(土) (予定)	未定	JAXA 相模原キャンパス特別公開 2013	JAXA 相模原キャンパス
	詳細は別途告知します。		
27日(土)		第172回「沖縄の歌と植物」	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑
27日(土)	13:30−14:30 15:00−16:00	体験プログラム 「瞽女(ごぜ)文化にさわる」	国立民族学博物館

27日(土) ｜ 28日(日)		土佐異界談義	高知県立大学 永国寺キャンパス （主催：日本歴史研究専攻）
30日（火） ｜ 9月1日（日）		伝統の朝顔	国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑

【教員の受賞情報等】

文化科学研究科

日本文学研究専攻

○青木睦　准教授、西村慎太郎　准教授ら

文化庁長官より感謝状　授与

（東日本大震災被災文化財等の救援・修復への支援活動）

高エネルギー加速器科学研究科

加速器科学専攻

○萩原雅之　助教、佐波俊哉准　教授ら

共著論文が日本原子力学会論文賞　受賞

複合科学研究科

情報学専攻

○稲邑 哲也 准教授ら

「教科書ロボティクス出版委員会」が日本機械学会教育賞　受賞

生命科学研究科

遺伝学専攻

○久保貴彦　助教

第123回日本育種学会講演会・総会において日本育種学会奨励賞　受賞

【編集後記】

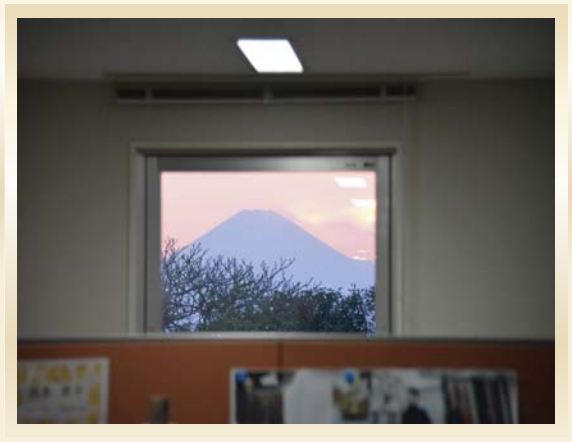
総研大ニューズレター６０号をお届けします。

４月８日（月）に入学式が開催され、引き続き、翌日まで学生セミナーが行われました。学生セミナー実行委員会の学生委員のすばらしい企画・運営により、新入生の皆さまは大変満足されたようです。

総研大は分散している大学のため、学生の皆さまが一堂に集まる機会はあまりありませんが、学生セミナーなどを通して、専攻間の学生交流が深められ、将来、新しい学問分野が創設されることを期待しております。

時期を外してしまいましたが、葉山キャンパスからもダイヤモンド富士を観ることができます。年に２回の機会がありますので、天候にもよりますが９月には富士山頂のダイヤモンドをお届けしたいと思っています。

広報室　T. S



学融合推進センター研究室からの眺望

◎各専攻で教員や学生がメディアに出演が決まっている場合や，発表や表彰等があった際にはご連絡ください。またメディア等に出演される場合は，可能な限り「総合研究大学院大学」と標記していただけますようご協力お願いします。

発行　2013 年 5 月 8 日
編集
国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES
広報委員会
神奈川県三浦郡葉山町（湘南国際村）
総務課（担当）
TEL 046-858-1500/FAX 046-858-1542

©2013 SOKENDAI

学融合推進センター News Letter 第 12 号

The Center for the Promotion of Integrated Sciences (CPIS)　　May/2013

学融合推進センター　運営委員からのメッセージ

本ニュースレターでは学融合推進センター運営委員からのメッセージをご紹介しております。

1．「融合研究コーディネーターとしてのミッション」

生命科学研究科　小林　武彦　教授

昨年４月から学融合推進センターの運営委員となり、学融合研究事業における研究プロジェクトのあり方等について議論を行なって参りました。それで感じたことは、融合研究は口で言う程簡単ではないな、というのが正直な感想です。仮にいいアイデアがあったとしても、相手探しから始まって、共同研究の進め方、現在の研究とのバランス、成果の発表方法、等々。主には<u>融合研究の経験のないことが障害となり</u>、実行面ではなかなか最初の一歩を踏み出せないものです。しかし、ご存知のように総研大に限らずとも、分野の融合、またその先にある新分野の創造は、アカデミアにとっての１つの宿命であり、若手教育の観点からもその道筋を付けて行くことは現職の責務です。「自分の時代でこの研究分野は終了、あとは知りません」ではやはりまずいのです。そこで推進センターの役割の一つとして、「融合研究コーディネーター」的な活動が出来たらいいと思います。総研大の存在価値を「新しい分野の創造とそれを担う人材の育成」に見いだすのであれば、推進センターのこの役割は総研大がアカデミアで存在感を発揮するための絶好のツールとなります。以下「融合研究コーディネーター」に必要とされる気質について思いつくままにあげてみます。推進センターがこの任を背負えるように微力ながら努力致します。

１）複数の分野に精通していること。
２）既存分野の問題点の認識が的確であること
３）信頼される存在であること
４）ポジティブで未来志向の姿勢を常に持ち続けること

2．　文化科学研究科　荒木　浩　教授

先日、電車の広告をながめていたら、「融合知」をうたい文句にする、とある大学の学部改組の宣伝文が貼ってあった。「融合」をどう英訳しているのだろうと気になって、手元の iPhone で探してみたが、うまく見つけられなかった。まさか「melting」ではあるまいね。本センターと同じく、「integrated」と訳すのだろうか。

かつて内閣府の肝いりでまとめられた「イノベーション戦略に係る知の融合調査」（2007 年）では、科学技術において「異なる分野間の知的な触発や融合により別の価値、成果を生み出すことを、ここでは「知の融合」と呼ぶ」と定義する。ところが、同じ年に日本学術会議がまとめた、「提言：知の統合―社会のための科学に向けて―」では、「知の統合」といい、「融合」を退けている。「知の「融合」という言葉もよく用いられるが、この言葉は「融ける」という語感があるので、知の本性からして違和感があると思われる。一度生み出された知は、より普遍的な知に向かって変成変身することはあっても、他の知に融けてしまうことは考えにくいであろう」と学術会議は述べている（「知の統合、総合、融合」の項）。共感できる「語感」である。

前任校の大阪大学で、文科系が中心になって COE を申請したとき、「インターフェイスの人文学」というタイトルだった。学問相互や社会に対する向き合い方を基軸に、ヒ

ューマニティーズのありようを「インターフェイス」という身構えで捉える。当時は不思議な物言いだなと思い、私は末端で関連の事業に参加したりしただけだったが、今顧みれば、なかなかよい位置取りである。次の GCOE は「コンフリクトの人文学」と名付けられたらしい。こちらは全く関与していない。しかし、コンフリクトというのも、予定調和を前提しない、学問のタフな対峙と拡がりを伝えていて、面白いキーワードだ。

文科系が好きなインターディシプリナリーという学問の形は、妥協や溶け込みではない。立脚点を見据えつつ、コンフリクトの火花を散らしながら格闘し、最善の方向を見いだそうとする試みであろう。その意味では、「学融合推進」の「the Promotion of Integrated Sciences」と結果的には対応している。 Sciences の「s」が重要だ。もっとも、文学研究などをやっている身としては、「Sciences」よりは「Studies」という設定の方が働きやすい気はするが…。

学融合研究事業　平成２５年度　新規課題公募　開始

昨年度は年度開始前に公募を行っていた学融合研究事業でしたが、今年度は少し遅れて４月末に公募が開始されました。学融合研究事業では、昨年１２月に「学融合研究事業の在り方検討会」を開催するなど、その意義について再確認し、本学の事業活動の一部として相応しい在り方を目指すべく、広く議論を重ねているところです。

そのような議論を受けまして、今回の新規課題の公募では一つの大きな見直しを行いました。昨年度までは「若手研究者研究支援」と「女性研究者研究支援」という二つの枠組みがあり、挑戦的かつ萌芽的な研究を実施することによって研究者としてのキャリアを形成する為の支援を行ってきました。しかし、今年度からはこの二つの枠組みを「育成型共同研究」として一つに統合し、主に若手研究者が中心となって行う共同研究を支援することになりました。単に個人研究を支援するだけでは「学融合」を目指す本事業の目的を達成するのは難しいとのご意見をいただき、積極的に他専門分野との共同研究を実施する本学が求める研究者の育成を目指す枠組みとして再スタートいたします。面白い研究のアイデアはあるけど、一緒に研究してくれる相手を知らないといった若手研究者にありがちな悩みにも対応できるような仕組みとなっております。枠組みの詳細につきましては公募要項をご覧下さい。

昨年度より開始しました「戦略的共同研究Ｉ」と併せて公募が行われており、共に締め切りは平成２５年６月７日（金）となっています。本学の研究活動の活性化と新しい学問分野の創出を目指し、皆様からの積極的なご応募をお待ちしております。

学融合推進センターHP　学融合研究事業　公募様式集：http://cpis.soken.ac.jp/htdocs//?page_id=140
研究事業全般に関するご意見・お問い合わせは担当教員の見上まで　Mikami_koichi(at)soken.ac.jp
*(at)を@に変えて下さい

科学とエンターテイメント：科学と社会の視点から

この４月１５日からフジテレビ系列でテレビドラマ「ガリレオ」の新シリーズがスタートしました。ガリレオの主人公は物理学者という設定で、第１回の放送では本学の基盤機関の一つである高エネルギー加速器科学研究所（KEK）が撮影の舞台として登場しました。KEK の HP では放送後に、撮影現場にあった研究機器の紹介などを掲載しています。現代社会では、科学がテレビドラマに登場することは珍しくありません。そして、ご存知のように宇宙科学研究所のプロジェクト「はやぶさ」は映画の題材にもなり、大きな社会現象ともなりました。このようないわゆる『エンタメ』領域との連携は、科学を身近に感じてもらい、その内容について知ってもらう一つの「きっかけ」として、各研究所の一般公開など共に、社会とコミュニケーションを取る為のアプローチとなり得ることは皆さんも感じているところかと思います。

その一方で、その登場の仕方や中身について研究者である皆さんはどう受け止めているのでしょうか。もしかしたら、「細かい中身はどうであれ、自分もそんなきっかけで研究者を目指したうちの一人だ」という方もいるかもしれません。逆に「科学の間違った理解を助長する」と懸念されている方もいるかもしれません。制作をする側も色々と情報を集めた上で、見せ方を考えていると聞きますが、科学を正確に伝えることが目的ではない以上、この点については作品によっても意見が分かれるところかもしれません。そこで紹介したいのは、Cell 誌上で発表された「*Jurassic Park* Revisited」という論文です。スティーブン・スピルバーグ監督の大ヒット映画「ジュラシックパーク」が１９９３年に公開されてから２０年が経った今年、米国ではその 3D 版が公開され、夏前には第４弾も公開になるそうです。この論文では、サイエンス・フィクションとして描かれた「ジュラシックパーク」に登場するゲノム操作関連技術がこの２０年の間にどの程度実現し、現在の科学の視点からその中身がどの程度現実味を帯びているのかを検証しています。科学と社会のコミュニケーションにおいてテレビドラマや映画、漫画などをどのように活用することができるのかについては今も研究が行われているところです。そのようなアプローチに不安を持つ方であっても、『エンタメ』に登場する科学を研究者間の専門的なコミュニケーションの中で「きっかけ」として活用してみてはいかがでしょうか。

＜参考＞

１．高エネルギー加速器科学研究科 HP
ニュースルーム『テレビドラマ「ガリレオ」の撮影が行われました』
http://www.kek.jp/ja/NewsRoom/Release/20130415222000/

２．Kruger, R. P. (2013) '*Jurassic Park* Revisited,' *Cell*, 153 (Apr 11), pp.278-279
http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S009286741300398X

（Cell 誌は本学として購読契約しておりますので、ご興味がある方は無料でご覧いただけます。）

（文責：学融合推進センター　助教　見上）

学融合推進センター　その他の事業予定

５月から８月にかけて現在のところ予定されている事業は以下の通りです。各事業の詳細・実施状況につきましては本学のホームページ等に掲載される予定です。申込みが必要な場合もございますので、ご確認の上ご参加ください。

○ 学長プロジェクト２０１３
葉山「益川熱血塾」～益川敏英先生と科学や社会、人生など語らいませんか？
＠学融合推進センター棟１階ホール　６月７日（金）

○ JSPS サマープログラム　６月１２日（水）～８月２０日（火）

総合研究大学院大学 HP：http://www.soken.ac.jp/event/index.html

編集後記　―　ニュースレター『心機一転』　―

これまで学融合推進センターでは３年に渡って３ヶ月に一度のニュースレターを発行し、今号で１２号となりました。「継続は力なり」とも言いますが、活動内容を伝えるためだけのニュースレターでは少し単調になっているのではないかという声もいただきました。そこで、今号からは学融合推進センターに所属する教員が順番に編集を担当し、それぞれの「特色」が見えるニュースレターへと方向転換することになりました。皆様が読みたくなるニュースレターにできるように工夫をしていきたいと思います。

（１２号担当：　学融合推進センター　助教　見上）